

福崎町文化財探訪記③

福崎町教育委員会 林 彰彦



岩尾神社

小春日和の続くある晴れた日、ふたび歴史探訪に出かけます。神積寺から南を見ると神社が見えます。岩尾神社という神社で、古くは神積寺の鎮守社であり、別名「文殊堂」とも呼ばれていたところだそうです。この文殊堂には、文殊菩薩が祭られ、文殊会式もここで行なわれていたということが絵馬などでも知られています。

拝殿に行くまでに、石橋と鳥居を通り過ぎたので、説明によれば、鳥居は慶長16年（一六一一）に姫路城主の命によって寄進されたものであることがわきました。神社を参拝した後、谷に続く東側の田の方に足を運びます。

道の両側には、小さいながらも黄色のタンポポが見え春の息吹を感じる日でした。しばらく進むと左側に山に続く道と谷の奥に続く道に分かれます。山に続く道は、日光寺といふ真言宗の寺院があるところまで続いているそうです。この道は古くから道ではなく、山の上に電波塔が建設された際に付けられた道で、古くからの上り口はもつと東側にあるということでした。今日は、登りやすい道を通つて行きましょう。

登り始めてすぐ左手に百町池とう名前の池が見られます。名前の由来はさることながら百町部の田を作ることが出来る池ということなのでしょうか。その池を過ぎ山道を登つていくと再び下り坂に上り坂と続き



日光寺・本堂

途中の展望所を過ぎて右手に梵鐘のあるところに着きました。そこから左手に続く道があり、そこを通ると日光寺の本堂へつながります。日光寺の本堂の先には双眼鏡が設置してありお金を入れて景色を楽しむことができます。瀬戸内海や明石海峡大橋までも展望できるすばらしい場所でした。

この堂を後にして、右側（南）に向かって歩いていくと今度は神社が見えました。この神社は亀坪にある大歳神社ということでした。地元の方に聞くと元は山の中腹にあったのですが、今はここに祭られているとのことでした。

道を進むといくつかの分かれ道が

あります。右側の道をすすみます。すると、新しい日光寺の登山口の場所に着きました。この道のすぐ左手（南側）に峰に続く道が見えます。

地元の方に聞くと「あかさか峰」というそうです。「あかさか」とは全國的にいろいろな理由で名付けられていますが、ここでは次のようなお話を伝わっています。

「むかしむかし、このあたりで戦がありました。この峰でも戦いがあり多くの人の血が流れました。その血

くだけりは、旧の山道を通つてみるとしました。上つてきた道に切り崩した地肌が見え、この中には小さな化石があるそうです。海の中にいたもので、ここが古くは海の中であつた証明にもなります。長い年月をかけて遠くの海からこの地まで大地が動いてきたのでしよう。

さな堂があり、この集落で祭られていました。降りたところは、小さな堂があり、この集落で祭られていました。急なところもあり、慎重に降りる様子。両側には、ヒノキなどの樹木が茂り昼夜でも薄暗い感じのする細い道でした。それでも薄暗い感じのする細い道でした。

で染まつた時は遠くから見ても赤く、赤く染まつた峰ということであかさか峰といわれるようになりました。

神を祭り、その靈を供養していくます」
その峠を越えていくと、大門という集落に行き着きます。集落は右手に見えますが、今回の探訪では、大門集落にはいかずに左手の西大貫集落に向かって進んでいきましょう。

代にかけて歴史探訪をしましたが、暖かない一日でした。又の機会にお会いしましょう。

世紀初め頃のものであり、調査に基づいて復元したということです。また、円筒埴輪は、地元の方によつて制作されたものを並べているとのことです。

この山から南側をみると平野部が一望でき、有力氏族の始めていたところが見渡せるのでしよう。当時の有力氏族の気持ちになれる気がします。本日は、山登りに始まり山で終わりにします。古墳時代から江戸時

福島田文化財探訪記③ ホーリー

- ① 神積寺
② 岩尾神社
③ 百町池
④ 日光寺
⑤ 亀坪地蔵堂
⑥ 亀坪大歳神社
⑦ あかさか峠
⑧ 相山古墳



相山古墳

